

中学部 1～3年 自立活動「お話」 学習指導案

日時：平成〇〇年〇月〇日（〇）〇校時

場所：自立活動室Ⅱ

指導者：T 1 〇〇〇〇 T 2 〇〇〇〇

T 3 〇〇〇〇 T 4 〇〇〇〇

他〇名

1 題材名 感じてみよう「花さき山」

2 題材の目標

- (1) 「花さき山」の物語を通して、音楽や話し手の声・絵の色彩・光などに触れ、様々な感覚を活用したり雰囲気を受け入れたり、感じた気持ちを表情や発声、身体の動き等で表したりする。
- (2) 友達や教師と一緒に、「花さき山」の世界に親しみ、味わい、感じ合う。

3 生徒と題材について

(1) 生徒について

本学習グループは、男子8名、女子4名、計12名からなる自立活動を主とする1～3年生の縦割りの学習グループである。どの生徒も学習では通常、バギーや車いすで移動し、日常生活全般において介助を必要としている。また、術後のため、ベッドで常に仰向位の姿勢で学習に取り組んでいる生徒も1名在籍している。自分の要求や感じた気持ちを簡単な言葉で伝えたり、他者に自分から手を伸ばしてやりとりを楽しんだり、他者の働きかけや興味を示す物に対して発声や視線、表情等で応えたりすることができる。絵本の読み聞かせの学習では、読み手の声や聞こえてくる音、色彩や光など、興味・関心を引かれるものは一人一人異なるが、集団でも楽しむことができるようになってきている。

(2) 題材について

自立活動「お話」の学習は、主に絵本等の読み聞かせを行いながら、「見る」「聞く」「触れる」「嗅ぐ」等の体験を重ね、様々な感覚を受容しながら、外界を認識したり、自分の気持ちを自分なりの表現方法で表出することをねらいとして取り組んでいる学習である。4月からは、大型絵本やエプロンシアター、紙芝居等で、『ねずみくんのチョコッキ』『おむすびころりん』『浦島太郎』など、様々な物語に触れてきたが、集団での読み聞かせの経験が少ない生徒もおり、学習に集中することができるように小グループにしたり、活動場所を変えたりと試行錯誤しながら取り組んできた。2学期からは、自立活動室Ⅱで『平家物語』『ブレーメンの音楽隊』『だんまりこおろぎ』などの物語を題材とし、光遊びの要素を取り入れたり、挿絵を壁に大きく投影し、ダイナミックな物語の世界を展開したりしてきた。一人一人が驚きや楽しさ、心地よさなどを友達や教師と一緒に感じ、楽しみながら学習している。

本題材で取り上げた『花さき山』は、斎藤隆介：作、滝平二郎：絵、による創作民話であり、読み聞かせの対象年齢は5歳からとなっている。秋田で過ごした作者が表現する「やまんば」の東北訛りの語り口のあたたかさに加え、『花さき山』の物語の世界を感じさせる楽器の生演奏を効果的に用いることで、生徒を引きつける魅力が十分にあると思われる。また、「切り絵」の独特な色彩のコントラストは視覚に訴える要素があり、滝平二郎氏が表現した独特な色彩の美しさを生徒たちに見せたい、伝えたいと考え、題材として選択した。さらに、『花さき山』の美しい花に注目し、花を歌ったわらべうたを子どもたちのふれあい遊びとして取り入れ、友達や教師とのかかわりを楽しみながら、物語の世界をじっくり味わい、感じてもらいたいと考えている。

(3) 指導にあたって

◇指導にあたっては次の点に留意する。

- ・個々のねらいを明確にし、生徒の表情や反応をよく見ながら、活動に応じて姿勢やポジショニングを変えたり、言葉かけをしたりして、TT間で連携を図り学習活動を進めていく。
- ・授業の始まりに対する意識付けや期待感を高めることができるように、学習グループの生徒全員が集合し、学習に対する準備が整うまで音楽を流すようにする。
- ・読み聞かせの際は、子どもに語りかける読み方や東北の方言に留意し、そのリズムや響きを感じられる読み方を工夫したり、生徒の表情や反応に応じて間を取ったりしながら読み進める。
- ・『花さき山』の世界により興味を示し、感じるができるように、学校教育支援ボランティアを活用し、お話の中に琴やフルートの演奏を加えながら、臨場感のある学習活動を展開する。
- ・他者とのかかわり遊びができるように、わらべうた遊びでは、友達や教師と向かい合い、小さな集団になって繰り返し取り組む。
- ・てんかん発作、覚醒レベル、痰や呼吸状態等、一人一人の体調に十分考慮し、安全に無理なく活動できるような環境設定に留意する。
- ・医療的ケア対象の生徒に対しては、看護師による痰の吸引が安全にできるように、ライトを準備し、常に健康状態を観察しながら学習に臨むことができるようにする。体調に応じては、ケアルームに移動して休養を取るなど、看護師と連携を図りながら臨機応変に対応できるようにする。

4 指導計画（総時数時間）毎週月③火②・・・本時5／7時間

◇感じてみよう「花さき山」

指導計画	主な学習活動	時数
「花さき山」と出会おう	琴の代表曲の鑑賞・演奏体験、「花さき山」を見る・聞く	2
「花さき山」を感じよう	「花さき山」を見る・聞く、わらべうたで遊ぶ	2
「花さき山」を親しもう	「花さき山」を見る・聞く、わらべうたで遊ぶ、 「花さき山」を作る	3 (本時1／3)

5 本時の実際

(1) ねらい

- ・読み聞かせやわらべうた遊びのなかで友達と一緒に音、色、光に触れ、期待感を表しながら「花さき山」の世界を感じる。

(2) 個別の実態とねらい

学年	氏名	本題材における実態	本時の目標	教師の支援	特に関連する自立活動の項目
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・変化するスクリーンの画面を感じながら、読み手の声や琴・フルートの音色に耳を澄まし、じっと聞き入っている様子が見られる。 ・わらべうた遊びのリズムや歌を好み、明るい色の布が迫ってきたり遠くなったりすると、口を開けてその動きや揺れ、光を楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「花さき山」の物語や音楽に親しみ、画面や音源に視線を振り向けたり、柔らかな表情で聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画面を楽に見たり聞いたりすることができるように車いすの高さを調整し、頭部の後ろにタオルを入れるなど、姿勢に配慮する。 ・わらべうた遊びでは、腕を大きく動かす等で運動感覚の活用を促す 	<p>4環境の把握</p> <p>(1)保有する感覚の活用に関する こと</p>
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を見たり、読み手の声や音楽に耳を傾けたりして、物語を楽しむ様子が見られてきている。また、自分の気持ちを伝えようとする姿も少しずつ増えてきた。 ・わらべうた遊びでは、教師とのやりとりを楽しみながら、笑顔になったり手の動きが見られたりしている。友達の様子も少しずつ意識してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた遊びを楽しみながら、感じた気持ちを近くににいる教師に発声や表情で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声や表情で教師に気持ちを伝えようとしたときには、その気持ちを受け止め、教師も表情や言葉で共感していることを伝える。 ・わらべうた遊びでは、友達の様子にも注目できるように友達に身体を向けたり、言葉をかけたりする。 	<p>3人間関係の形成</p> <p>(1)他者とのかかわりの基礎に関する こと</p> <p>6コミュニケーション</p> <p>(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する こと</p>
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・画面が切り替わった際に頭を動かすなど、周囲を気にする様子が見られるようになってきた。音楽が好きで、特に琴の音が気に入り、声を出して笑ったり、音のする方向に顔を向けようとすることが多い。 ・わらべうた遊びでは教師とのやりとりを楽しみながら、布の感触を楽しめるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「花さき山」の読み手の声や琴、フルートの音色を聴いて、感じた気持ちを発声や表情、身体の動きで表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表情や発声で気持ちを表現できたときには、「いい音だね、きれいだね」等言葉かけをし、気持ちを共感する。 	<p>4環境の把握</p> <p>(1)保有する感覚の活用に関する こと</p>
	D	<ul style="list-style-type: none"> ・場所と活動内容に見通しをもち、本題材の学習がはじまることを理解している姿が見られる。琴やフルートの音色が聞こえると、じっと耳を澄まし集中して聞いているため、下を向いていることがある。 ・わらべうた遊びは、自分から手を伸ばして花に見立てた布に触れようとしたり、サインや発声でもう一回やりたいことをサインや発声で教師に要求したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や音楽などの展開に期待感を示して、花さき山のお話を見聞きする。 ・わらべうた遊びを繰り返し要求するなど、サインや発声で自分の気持ちを積極的に友達や教師に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの場面での言葉かけは控え、静かに見守る。 ・満足感や達成感が得られるように、「どの花が欲しいかな?」「もう一度やる?」などと問いかけ、選択して学習する場面を設ける。また、サインや発声で表現した場合は、言葉で伝え返す。 	<p>6コミュニケーション</p> <p>(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する こと</p> <p>4環境の把握</p> <p>(1)保有する感覚の活用に関する こと</p>

(3) 過程

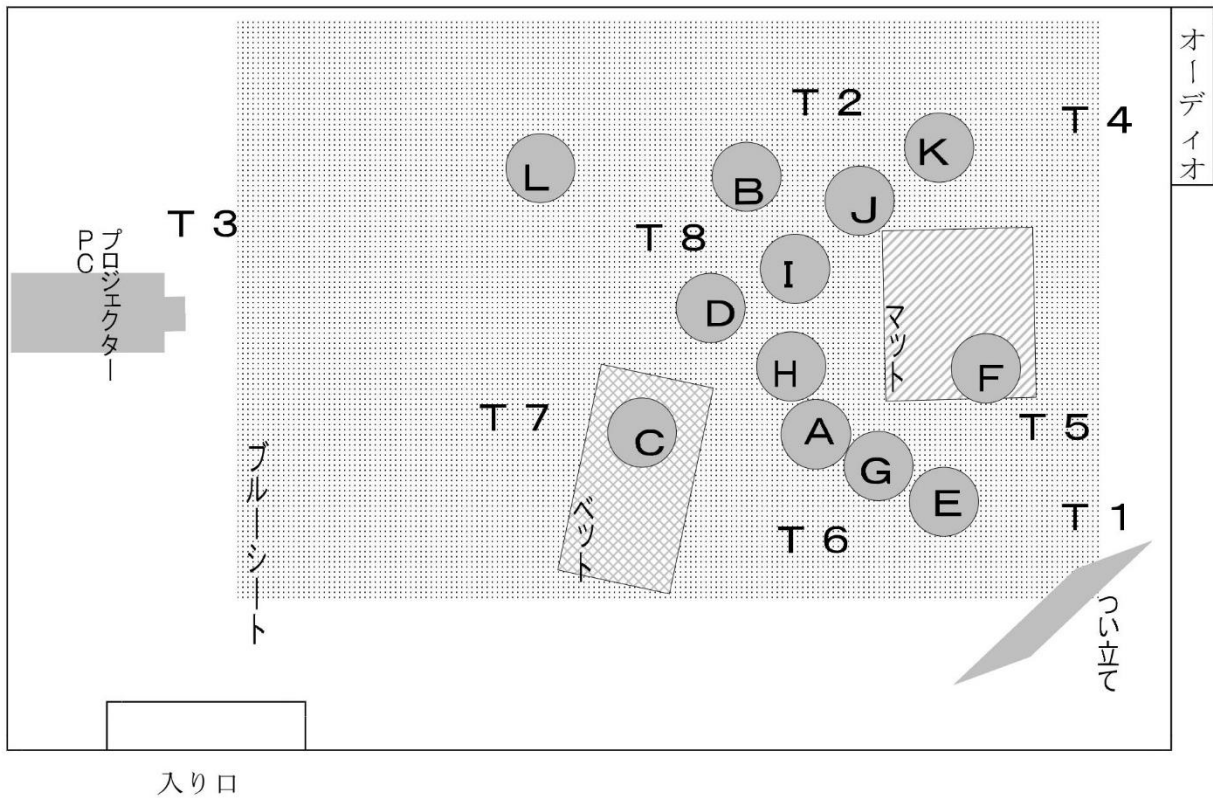
時間	学習活動	T 1の全体への支援	指導上の留意点・支援				準備物
			T 2	T 3	T 4	T 5～T 8	
2	1 始めのあいさつをする。	・画面に気持ちが向くような全員の姿勢や顔の向きを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が気持ちを向けて、物語を見たり聞いたりすることができるような車いすの位置や姿勢、顔の向きなどに留意する。 				ブルーシート プロジェクター 講壇台 パソコン 延長コード CD CD用入出力コード CDラジカセ 生花 フルーツ 花に見立てた布の教材 テーブル 黒布 ブラックライト クリップライト
5	2 「花さき山」のお話が始まることを知る。 ・生花にふれる、においをかぐ ・本の表紙を見る	・本陣の活動に興味を示し、お話が登場する「花」の場面を意識できるように、生花を提示し、花のにおいや感触を一人一人が感じることができるよう待つようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語に期待感や見通しをもつことができるように、生花を鼻に近づけ、一人一人の表情を見ながら共感できるように、「いいにおいだね」「きれいだね」と語りかける。 				
20	3 「花さき山」のお話を見る、聞く、感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の表情を見ながら、T 2、T 3、T 4と気持ちを合わせて読み聞かせを進める。 ・生徒が読み手の声や画面の絵に注目することができるように、紙みしめを取ったり、声の抑揚を変えたりしながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語のタイミングに合わせて、CDを操作し、琴の音色や歌を流す。 ・(L) が画面やお話に集中して向えるように、周囲の友達や教師との間隔をとる。 ・T 1の語りに合わせてプロジェクターを操作し、画面を提示する。 ・(J) が眠そうなどきは、車いすの角度を調節する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語り手とともに前方に配置し、琴の演奏CDにあわせて物語の始め、場面展開、終わりにフルートを演奏する。 ・(F) の隣りに座り、体調や姿勢を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内が急に暗くならないように、プロジェクターに表紙の絵を投影したのを確かめてから、少しずつカーテンを閉めたり、室内の電気を消したりする。 ・生徒一人一人の姿勢や目線の確認し評価しつつ、一緒に雰囲気を見ながら必要であれば、車いすの向きを変えるなど画面を見るポジションや姿勢を変更する。 ・物語に意欲をもつことができるよう、必要に応じて、言葉かけをしたり、身体に触れたりする。 ・T 5は(F)の表情や呼吸状態を注意深く観察し、吸引を必要とするときは、T 7に看護師を呼ぶことを依頼する。 ・室内が急に明るくなり、生徒が驚くことがないように、少しずつカーテンを開けてから、室内の電気を付けるようにする。 ・T 5は、(A)をマットに移動し仰向けの姿勢にする。 ・T 6はT 1の言葉かけに合わせてキーボードを演奏する。 		
15	4 「ひらいたひらいた」のわらべうたで遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味関心や期待感をもつことができるように、「ひらいたひらいた」を感じながら、生徒の目の前で花に見立てた布の教材を提示する。 ・様々な遊びを楽しむことができるよう、大きな花や小さな花など、パリエーションを変えて遊んでみることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆以下のグループになり、友達と向き合ったり、丸くなったりして、お互いの様子を見ることができる配置を整える。 ・(A) (F) グループ・・・T 1、T 4～二人が覆われるような大きな布を提示し、わらべうたのリズムに合わせて上下に動かし、布の感触を手や顔で感じたりする。 ・(E) (G) グループ・・・T 5～名前を呼び、教師と目を合わせてから取り組む。顔の上から広がる布を見たり、手に包んで感触をじっくり味わったりして楽しむようにする。 ・(C) (L) グループ・・・T 3、T 7～(C)が仰向けの姿勢で布の動きを楽しむことができるように、頭上で布を上で揺らす。 ・(J) (K) (H) グループ・・・T 2～歌やリズムを感じて、笑顔や興味を引き出すことができるように、一緒に言いながら、手の中で花を作ったり、小さくしぼませて隠したりしてかわり遊びをする。 ・(B) (D) (I) グループ・・・T 8～(D)が自分で布をつかむことができるように、テーブルの上に置く布を期待したり、探したりする姿を引き出すことができるように、布を手の前で隠したり、歌に合わせて広げたりする。 				
3	5 みんなの「花さき山」を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・音、色、光の「花さき山」の世界を再び味わい、注目することができるように、遊んだ布の花を正面に飾りブラックライトで照らすようにする。 ・新たな「花さき山」の世界を感じることができるように物語の感銘を朗読する。 ・余韻に浸りながら、学習の終了に気づくことができるように、静かに学習の終わりを告げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・T 1の言葉に合わせて、CDを操作し、琴の音色を流す。 ・T 1の言葉に合わせて、プロジェクターを操作し、「花さき山」の画面を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の正面に注目できるように、車いすの配置や向きを整える。 ・生徒の表情や動きを見ながら、一緒に「花さき山」の世界を感じ合うことができるように、「きれいだね」「たくさん映いたね」などと語りかける。 			

(4) 評価

- (生徒) ・友達と一緒に感じた「花さき山」の世界を、自分なりの表現方法で表していたか。
 (教師) ・生徒が興味を示して、見たり聞いたりできるような教材の提示の仕方(物語の読み方、スクリーン上の絵、布のお花など)や展開が工夫されていたか。
 ・生徒が「花さき山」の世界を感じ、周囲の様子に気持ちを向けて活動できるような、姿勢への配慮や状況に応じた支援は適切であったか。

6 配置図

◇ 読み聞かせの活動場面



◇ わらべうた遊びの活動場面

